

第4節 シンガポールにおける事例(2)：オーストラリア貿易促進庁・シンガポールとオーストラリア政府国際教育機構・シンガポール (Austrade Singapore and Australian Education International Singapore) ¹¹⁷

太田 浩

1. オーストラリア政府奨学金 (Australia Awards) とその同窓生および同窓会に関する基礎的な情報

オーストラリアの国費留学生制度であるエンデバー奨学金 (Endeavour Awards) がシンガポールで始まったのは2006年からであり、現在、本制度のシンガポール人同窓生は12名である。エンデバー奨学金は、2009年にオーストラリア連邦政府が政府系の留学生奨学金制度をオーストラリア政府奨学金 (Australia Awards) として統合した際、開発奨学金 (Development Awards) と並ぶ主要な国費留学生プログラムとなった。エンデバー奨学金は、メリット・ベース (能力ベース) の国費奨学金制度であり、諸外国の優秀な若者にオーストラリアの高等教育機関に留学することで、彼らの学問的、専門的能力の開発を支援することを意図している (Department of Education, Employment and Workplace Relations, 2012)。シンガポールは先進国であるため、開発奨学金の対象ではなく、実質、オーストラリア政府奨学金制度の同窓生は、先述したエンデバー奨学金の12名のみとなる (すべてオーストラリアの大学院を修了)。現在までのところ、エンデバー奨学金の同窓会はなく、よってその支部もシンガポールにはない。エンデバー奨学金に関する事項は、オーストラリア政府国際教育機構 (AEI: Australian Education International) とその海外支部が担当している。

1951年に始まったコロombo計画 (Colombo Plan) でオーストラリアの大学は多くの学生を発展途上国から奨学金付きで受け入れたが、これは英連邦 (British Commonwealth) 全体の事業であり、オーストラリア政府の国費留学生制度とはみなされていない。このコロombo計画に関する公的な同窓会組織もシンガポールには存在しない。ちなみに、コロombo計画によりオーストラリアに留学したシンガポール人は1,000人に上る。

オーストラリア留学後、シンガポールに帰国した人たち、あるいは仕事の関係などでシンガポールに居住しているオーストラリア留学経験者を対象とした同窓会組織としては、オーストラリア同窓会シンガポール (Australian Alumni Singapore) がある。オーストラリア留学のプロモーションとブランディングを担

¹¹⁷ 本報告書はウェブサイト上の調査に加え、2012年2月24日に行ったオーストラリア貿易促進庁・シンガポールの Sherleen Seah 氏とオーストラリア政府国際教育機構・シンガポールの Stephen Li 氏へのインタビューを基に作成した。

当しているオーストラリア貿易促進庁（Austrade: Australia Trade Commission）とその海外支局が私費、国費を問わず、オーストラリア留学経験者（同窓生）に関する事項を担当している¹¹⁸。オーストラリア同窓会シンガポール（以下、AASとする）は、オーストラリアの39大学の同窓会シンガポール支部（Chapter）のアンブレラ組織ともいえる。

2. オーストラリア留学者の同窓会組織とオーストラリア政府による支援の現状

シンガポールにおいて、オーストラリア留学経験者の同窓会は、大学ごとに設立されたものが基礎であり、メンバー間および同窓会支部と大学の同窓会本部との結びつきも強い。AASが、そのような大学ごとの同窓会のシンガポール支部をアンブレラ組織としてまとめている。基本的に、それら同窓会支部は、各大学のシンガポール人卒業生のリーダーシップの下、アドホックに設立されたものを起源としており、また卒業生数の数によって支部の規模も異なることから、同窓会支部の活動が盛んなところと、そうでないところの差は大きい。

オーストラリア政府は、オーストラリア貿易推進庁（以下、Austradeとする）の海外支局や各国にあるオーストラリア大使館が各大学の海外の同窓会支部および同窓生（元留学生）を支援することは、オーストラリア留学の価値を高め、オーストラリアの大学で学んだ世界中の人々の価値を高めるという点から重要であると認識している。シンガポールは、オーストラリア留学経験者が多いことから、その重要性は特に高い。また、このような元留学生と同窓会組織を支援することは、オーストラリアのソフト・パワーを強化することにもつながる。ただし、現在までのところ、オーストラリア政府の元留学生や海外の同窓会支部に対する支援は、イベントの際に大使館の施設を会場として提供するなど限定的なものに留まっている。また、各大学の海外の同窓会支部やAASのようなアンブレラ組織を支援する場合でも、オーストラリア政府としての支援は、資金的にみても、またこれまでの同窓会の経緯（基本的に卒業生のボランティアによって自主的に運営されてきた）をみても、側面的なものにならざるを得ない。新しい動きとしては、2010年に Australian Alumni Award というオーストラリア留学をしたシンガポール人で、特筆すべき活躍をおさめた人を表彰する制度が創設されたことがあげられる。これは、在シンガポール・オーストラリア大使館が担当し、表彰式典はAASと共同で開催している。

¹¹⁸基本的には、Austradeがオーストラリアの教育や研修（トレーニング）に関する海外でのマーケティングとプロモーションを担当し、AEIが国際教育分野における戦略的政策、規則、そして政府間交渉や協定などに関する事項を担っている。オーストラリアの国際教育におけるAustradeとAEIの役割の違いに関する詳細は、以下のウェブサイトにある2010年7月1日発表の資料を参照のこと。

https://aei.gov.au/About-AEI/Policy/Documents/1JulyRolesandResponsibilities_pdf.pdf

3. エンデバー奨学金同窓会設立の動き

現在、エンデバー奨学金に特化した同窓会を立ち上げようという動きがある。設立された場合、その担当は、オーストラリア留学の同窓生を全般的に担当している Austrade ではなく、エンデバー奨学金を担当しているオーストラリア政府国際教育機構（以下、AEI とする）となるであろう。エンデバー奨学金の同窓会を設立し、同窓生のコミュニティを世界各国に作ることは、戦略的にエンデバー奨学金のブランディングを図る上でも重要な施策であると考えられている。ただし、そのための同窓会設立と運営に関わる予算確保の問題と元奨学生の利活用¹¹⁹をどの程度行うか（過剰な負担にならないような配慮）という点が課題となっている。

エンデバー奨学金の同窓会設立の際は、AEI 本部の方針、意向も大事だが、世界各地の同窓会支部レベルでは、その国の事情に合わせた柔軟な運営が必要になるであろう。同窓会設立に対応できるように AEI のシンガポール支局では、エンデバー奨学金のシンガポール人同窓生に関する情報把握と情報のアップデートに努めているところである。エンデバー奨学金を受給した留学生在がオーストラリアの大学院を修了した際には、キャンベラの AEI 本部から AEI の海外支局に連絡があるので、そこから母国側での同窓生へのフォローアップが始まることになる。

4. 課題

元留学生は、オーストラリアで学んだというより、オーストラリアの特定の大学で学んだという意識が強い。言い換えると、元留学生の帰属意識は、国よりも自分の留学した大学にあると言える。また、各大学の同窓会およびその支部では、財政的援助は歓迎しても、活動そのものに対する干渉や介入を嫌う傾向もある。よって、政府が同窓会を支援するという一方で、活動に関与するようになったとき、同窓会組織や同窓生に対して何らかの義務的活動（たとえば、留学フェアへの出席などオーストラリア留学に関する広報宣伝活動への協力）が生じると、それが負担となり、逆に反感を買う恐れもある。

オーストラリア政府が国を単位として、すべてのオーストラリア留学経験者にアプローチするとき、大学を越えて彼らが共通に興味や関心を持ってくれそうなイベントを企画できなければ、多くの参加者は期待できないと考えている。また、元留学生同士のネットワーキングを政府が支援するという意図を示すことは簡単だが、それを達成するために実効性のある場と機会を継続的に提供するのは容易ではない。オーストラリアに留学したという共通点だけで、出身大学の異なる人々の中から多くの参加者を集めるのは難しく、また仮に多くの参加者を集めること

¹¹⁹ たとえば、エンデバー奨学金の広報宣伝への協力や行事への参加など。

ができたとしても、それで自然発生的にネットワーク化が図られる、何か興味深いものが生まれるというわけでもない。そこには何らかの仕掛けが必要である。多忙な元留学生は、自分たちが参加することで何か実質的な利益が得られることを目に見える形で提示されなければ、積極的に参加してくれることはないであろう（シンガポールのような実利を重視する社会ではその傾向がさらに強い）。留学時代を懐かしむ場を提供するだけでは、若い世代の元留学生は集まらない。

留学後、帰国した場合でも、あるいは第3国に移住した場合でも、留学経験者がオーストラリアやオーストラリア留学経験者のコミュニティとつながっている、オーストラリアでの留学経験が活着しているという感覚を継続して持ってもらえるような工夫と仕掛けが必要であり、FacebookなどのSNSの活用を含め、そのための有効な施策や手法を練っている段階である。

近年、オーストラリア、シンガポール共に個人情報保護に対する法令が強化されており、連絡先の情報を集めるだけでも困難な状況になっている。現状では、政府機関や同窓会組織がオーストラリア留学経験者の情報を能動的に集めることは難しく、ウェブサイトを作って、そこに連絡先を登録してもらうよう呼びかけるといった受動的なアプローチにならざるを得ない。

5. おわりに

政府がその国で学んだ留学生の同窓会組織を支援するというのは、世界的にみれば新しい取組みであろう。オーストラリアの場合、同窓会の海外支部は、大学単位に設立され、大学からの支援が得られる場合もあるが、各支部の自主的な運営が基本となっている。しかしながら、開かれた外交（Public Diplomacy）¹²⁰、あるいは、ソフト・パワーを強化するという観点からは、私費、国費に関わらず、元留学生（帰国留学生）との継続的な接触と良好な関係維持を図るために、政府が積極的に彼らに対する支援策を講じることの重要性が高まっている。元留学生に対して、卒業後（帰国後）も留学した国に対する興味と関心を継続的に持ってもらえるような施策、留学した国との関係性が絶えないような施策を講じることにより、彼らが留学した国のよき理解者（あるいは専門家）として、母国あるいは第3国で活躍することにつながる。この点からは、アメリカのフルブライト奨学金は、典型的な好事例と言える。

一方、国費留学生（政府奨学金）制度の場合、納税者に対して、国として留学生を外国から招へいし、奨学金を支給して教育研究の機会を与えることの意義と成果を示すことは、国民への説明責任を果たすという観点から必要なものと強く

¹²⁰ 通常的外交とは別に、外国の一般市民に直接情報を供給したり、国際的に鍵となる人々を関与させたりして影響を与え、（自国にとって有利な）国際世論の形成を図ること。または、外交活動の対象をその国の一般の国民にも広げ、自国のブランド力の強化を図ることを意味する。

認識されてきている。そして、その必要性は、国の財政状況が厳しくなるとともに増してきている。エンデバー奨学金は、メリット・ベースで支給されているというその特性から奨学金受給者の成功事例を収集し、それを国の内外に示すことが重要であろう。これは説明責任を越えて、AEI の意図しているエンデバー奨学金の世界的なブランド力強化にもつながる。

参考文献

Australian Education International. (2010). *Australian Government Agency Responsibilities for International Education*. Retrieved from https://aei.gov.au/About-AEI/Policy/Documents/1JulyRolesandResponsibilities_pdf.pdf

Department of Education, Employment and Workplace Relations. (2012). *Endeavour Awards Home*. Retrieved from <http://www.deewr.gov.au/International/EndeavourAwards/Pages/Home.asp>
[X](#)